

第7回総合計画等推進市民委員会

事前質問・意見一覧表

事前に送付した会議資料（総合戦略の概要、数値目標及びK P I 等）に対し、以下のとおり質問や意見が寄せられておりますので、回答と併せ、御報告いたします。

I. 寄せられた質問及び意見の件数（総括表）

資料名等	質問数	意見数	掲載ページ
1. 第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略全般に関して	0	0	P.2
2. 資料1 第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要	0	0	P.2
3. 資料2 第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標及び重要業績評価指標（K P I）	7	1	P.2～6
計	7	1	－

（次ページ以降に具体的な質問や意見の内容を掲載）



Ⅱ. 具体的な内容

1. 第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略 全般に関して

●質 問

質問なし

●意 見

意見なし

2. 資料1 第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

●質 問

質問なし

●意 見

意見なし

3. 資料2 第2期八戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標及び重要業績評価指標（KPI）について

●質 問

No.	内 容	
1	質問	【掲載箇所】9 ページ「はちのへ創業・事業継承サポートセンターを活用して起業した件数」
		○ 事業継承は、重要な問題と考えている。特に従業員を多数抱えている会社は、従業員の雇用が難しくなるなど、関連する問題が多くなると予測している。また事業継承が出来ないと今まで培った事業のノウハウもなくなる。簡単なことではないと理解しているが、事業譲渡なども進めていくのも大事と考えているが、そのような支援も行っているのかお聞きしたい。
	回答	【担当部署】商工課 ● 事業継承支援については、創業及び事業継承の支援拠点として設置している「はちのへ創業・事業継承サポートセンター」において、八戸商工会議所が中心となって事業継承に関する相談対応や各種セミナーを実施しております。 ● なお、特に支援が必要となる第三者への事業継承（事業譲渡）については、広域的なマッチング活動が重要となるため、相談内容に応じて、県内の商工団体、金融機関、士業団体等で構成される青森県事業継承ネットワークや、青森県事業継承・引継ぎ支援センターと連携してサポートを行っております。

No.	内 容	
2	質問	【掲載箇所】12 ページ「八戸市無料職業紹介所等におけるUIJターン就職者数」 ○ R5年度は、目標値の100人の2倍近くの人数に達しており、素晴らしいと思うが、この数はUIJターンをする人数自体が毎年増加傾向にあるのか、それとも八戸市無料就職紹介の発信強化によってその利用者が増加傾向にあるのか、またはそのどちらもなのか。H30の頃と比較のうえ、教えていただきたい。
	回答	【担当部署】産業労政課 ● 市では、平成 22 年度から「無料職業紹介所」を開設し、企業の人材確保と求職者の早期就職を支援するため、八戸圏域内事業所の求人登録や就職を希望する方の求職登録を受け付け、職業紹介業務を実施しております。 ● また、UIJ ターン就職の促進を目的に、平成 28 年度から「ほんのり温ったか八戸移住計画支援事業」としてUIJ ターン就職希望者に対して引越費用等の一部を助成するほか、令和元年度から「移住支援金支給事業」として東京圏から当市に移住し中小企業に就業した方などに支援金を交付しております。 ● ご質問のありましたUIJ ターン就職者数につきましては、無料職業紹介所等を利用して就職した方の累計の人数であり、平成30年度は90人、令和5年度には191人と年々増加しております。 ● 無料職業紹介所の利用者数につきましては、平成30年度は313人でしたが、民間の求職ツールの幅が広がっていることなどにより、令和5年度は117人に減少しております。 ● 一方で、UIJ ターン就職に関する相談・問合せにつきましては、平成30年度は514件でしたが、令和元年度からは、ほんのり温ったか八戸移住計画支援事業に加えて、新たに国の制度に基づく移住支援金支給事業を実施していることもあり、令和5年度は584件と増加しております。 ● このようなことから、当該就職者数の増加につきましては、UIJ ターン就職を希望する方自体が増加していることによるものと考えております。

No.	内 容	
3	質問	【掲載箇所】12 ページ「市内高等学校卒業就職者の県内就職率」 ○ 県内就職率はその年によってばらつきがあるようだが、特にR4の数値が目標値を大きく超えて高くなっているのは、どのような要因が考えられるのか。
	回答	【担当部署】産業労政課 ● 市内高等学校の県内就職率につきましては変動要因まで示されておりませんので、あくまで推測となりますが、コロナ禍の最中であった令和2年度から令和4年度において県内就職率が増加していることから、新型コロナウイルス感染拡大を要因とし、県外就職を控えて親元（実家）に近い県内企業に就職する高卒者が多かったことが、高い県内就職率につながったと考えられます。

No.	内 容	
4	質問	【掲載箇所】 21 ページ「町内会加入率」 ○ 町内会加入率が上昇することによって「誰もが活躍する地域社会の推進」が進むとする理由を教えてください。加入しても活動していなければ、活躍する地域社会が推進されているとは言い難いのではないかと考える。
	回答	【担当部署】 市民連携推進課 ● 地域に住む方々が、安全・安心で快適に暮らしていくにあたっては、ごみ集積所の維持管理や防災・防犯対策、高齢者や子どもの安全など、個人や家庭では解決することが難しい、生活に密着した問題があります。これらの問題は多様化し、行政サービスだけで解決することが難しくなっており、地域に住む方々がお互いに協力し、助け合う必要があります。その主体となるのが、市民に最も身近な地域コミュニティ団体である町内会であり、日頃から地域の安全・安心を支える活動を担っていただいております。 ● 町内会に加入することは、こうした地域の問題を市民一人ひとりが自分自身の問題として捉え、地域の一員として社会参加する第一歩であり、また、町内会に加入して地域のことを知ることで、自分が地域の一員であるという自覚が芽生えていくものと考えております。 ● このため、町内会加入率が上昇することにより、自分が住む地域において誰もが自分のできる方法やペースで活躍できる素地が底上げされ、地域力や市民力が高まると考え、重要業績評価指標に設定しております。 ● また、市においては、八戸市連合町内会連絡協議会と連携し、「地域リーダー応援講座」を開催するなど、町内会員の皆さんが町内会活動により積極的に参加していただけるような事業を行っており、今後も様々な取組を推進してまいります。

No.	内 容	
5	質問	【掲載箇所】 21 ページ「シニアボランティア活動実人数」 ○ R1の120人からコロナの活動自粛時期を挟んでR5の数値の回復が見られないのが気になった。この結果について考えられる要因はどのようなものがあげられるか。
	回答	【担当部署】 高齢福祉課 ● 令和5年度のボランティア活動実人数の回復が見られない要因としては、令和2年度から令和3年度にかけて、コロナ禍の長期にわたる活動自粛により活動から離れたことから、令和4年度の再開時に登録更新者が減少したことが考えられます。 ● さらに、対象者が60歳以上であり、感染症の重症化リスクが高いと思われる高齢者が多く、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行した後も、感染予防の観点から活動参加を見合わせたことにより、新規の登録者数が伸び悩んだことから活動実人数の回復につながらなかったものと考えられます。 ● また、活動場所となる介護施設等の利用者には、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いと思われる高齢者や基礎疾患をお持ちの方が多く、感染予防のため活動の受入れを自粛した施設があることも要因の一つに挙げられます。 ● 今後は、市の広報紙やHPでの周知のほか、老人クラブや鶴岡大学での周知、BeFMラジオでの会員募集のPRなどに努めるとともに、施設には感染予防対策の継続、徹底について啓発・周知を図り、登録会員の拡大に取り組んで参ります。

No.	内 容	
6	質問	【掲載箇所】 30 ページ「【施策3】観光地域づくり・ブランディングの推進、【施策4】時代に合った個性あふれる地域の形成」 ○ 記載の通り「住み続けたいまちをかたちづくり」ために、アートのまちづくり、本のまちなど、地域のブランディングを行っていくのは重要だと感じている中で、KPIに組み込まれていない理由を知りたい。 ○ 例えば、八戸市美術館の来客数増や、美術館と一緒に行う関連イベントの数など、ブランディングをしていくKPIも設定できるのではと考える。 ○ 中心市街地の歩行者通行量が増えることも大事だが、増えたことによって【施策4】に記載されていることが達成するかが見えないため、KPIを変更したほうがいいと考える。歩行者通行量の調査も年に数回しか行っていない中で、その数字をどこまで信じていいのか、疑問が残る。
	回答	【担当部署】 政策推進課 ● KPIについては、施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標であることから、当該施策の進捗を検証するうえで有効な指標を設定する必要があります。 ● 委員ご指摘のとおり、アートのまちづくり、本のまち八戸の推進等の取組によってブランディングを図っていくことは重要なことでありますが、現在のKPIは、策定時点で、アウトカム指標として毎年数値を把握できる適切な指標が限られていたことから、現在の指標として採用したものであります。 ● 現在、市では、次期総合戦略の策定に向けて準備を進めており、これまでの取組を踏まえて当市の地方創生に資する基本目標を定めるとともに、その基本目標に紐づく具体的な施策を位置づけ、また、数値目標やKPIを設定していく予定であります。 ● 次期総合戦略では、委員ご指摘の美術館の来館者数なども含め、地方創生を進めるうえで、適切なKPIの設定になるよう検討してまいります。

No.	内 容	
7	質問	【掲載箇所】 31 ページ「宿泊者観光消費額」 ○ 宿泊者数・消費額ともに増えていることは観光・飲食業にとって非常に喜ばしいことと思う。今年に入って、平日の朝も夜も、中心街を歩いているとインバウンドらしき方を見る人数・回数共に非常に多くなってきている。市としてインバウンドの方にどういった宣伝を行っているのか。訪れた方にどういったフォローなどを行っているのか、また、もしわかっているのであれば、宿泊者数・消費額ともに、インバウンドと国内旅行の方が分かれている数値があれば知りたい。
	回答	【担当部署】 観光課（VISITはちのへ） ● インバウンド向けの宣伝について ・ 令和5年度の実績としては、ターゲット国である台湾・イギリスに現地エージェントを配置し、現地旅行会社やメディアへ八戸圏域の魅力的なコンテンツ、宿泊施設、交通手段等の情報を継続的に提供しております。 ・ インバウンド事業を効果的に進めるために、アドバイザーを招請するとともに、台湾現地で開催された旅行博及びインバウンド向け旅行会社との商談会に参加しております。 ・ 外国語版HPの作成、SNS（Facebook、Instagram）での情報発信（英語）を行っております。 ● 実際に八戸を訪れた人へのフォローについて ・ 観光案内所において英語を話せる職員を配置しているほか、英語、中国語（繁体字）（簡体字）のパンフレットなどを作成しております。 ● インバウンドと国内旅行の数値について ※別紙資料のとおり

●意見

No.	内 容	
8	意見	【掲載箇所】 34 ページ 中心市街地の歩行者通行量
		○ 目標値との開きが年々大きくなっているのがどの項目よりも顕著にみられる。八戸市だけでなくどこの地方都市にも中心市街地の歩行者通行量の減少は見られると思うが、八戸市では中心街に来る「目的」がひとつでも増えるような取り組み、時間軸では特に「日中」、中心街が生活の一部になるような取り組みを引き続きお願いしたい。
	回答	【担当部署】 まちづくり推進課 ● 施策の方向性に掲げる「まちの魅力向上」においては、既存の施設や資源の組み合わせと連携強化、空き店舗対策による店舗出店などにより、中心市街地を訪れる「目的」となるものを創出していくこと、さらに、中心市街地において居住者や就業者が増えている状況に鑑み、暮らしやすさ・過ごしやすさといった視点から、時間軸で見た「日中」に視点を置いた取組を進めていくことが重要であると考えております。 ● 御指摘の点を踏まえながら、引き続き、中心市街地活性化に取り組んで参ります。